

# 大豆情報第4号

J A む な か た  
北筑前普及指導センター

本年の8月1日から8月25日の気象は、平均気温は27.2℃（平年比+1.3℃）、降水量は191mm（平年比126%）、日照時間は181時間（平年比103%）で推移しました。

大豆は7月20日前後に播種を終えたほ場では、8月20日頃に開花しています。

7月降雨による播きなおしを行っているほ場で、まだ開花をしていないほ場では今後は下記1. 雑草の除去の項目に注意して栽培管理を行ってください。

## 1. 雑草の除去

ホソアオゲイトウ、アサガオ類などの難防除雑草は結実する前までにできるだけ早めに手取りを行いましょ。う。

イネ科雑草が多い場合はポルトフロアブルによる雑草防除を行ってください。ホソアオゲイトウ、アサガオ類は大豆の開花期になると、除草剤を使えませんので手取りを行いましょ。う。

### 【イネ科雑草】

ポルトフロアブル（200～300ml/10aを水100ℓ、収穫30日前まで）

### 【アサガオ類】

大豆バサグラン液剤（100～150ml/10aを水100ℓ、開花前まで）

### 【ホソアオゲイトウ、ホオズキ等の広葉雑草】

アタックショット乳剤（30～50ml/10aを水100ℓ、開花前まで）

## 2. 病害虫の発生状況と防除

### （1）紫斑病防除

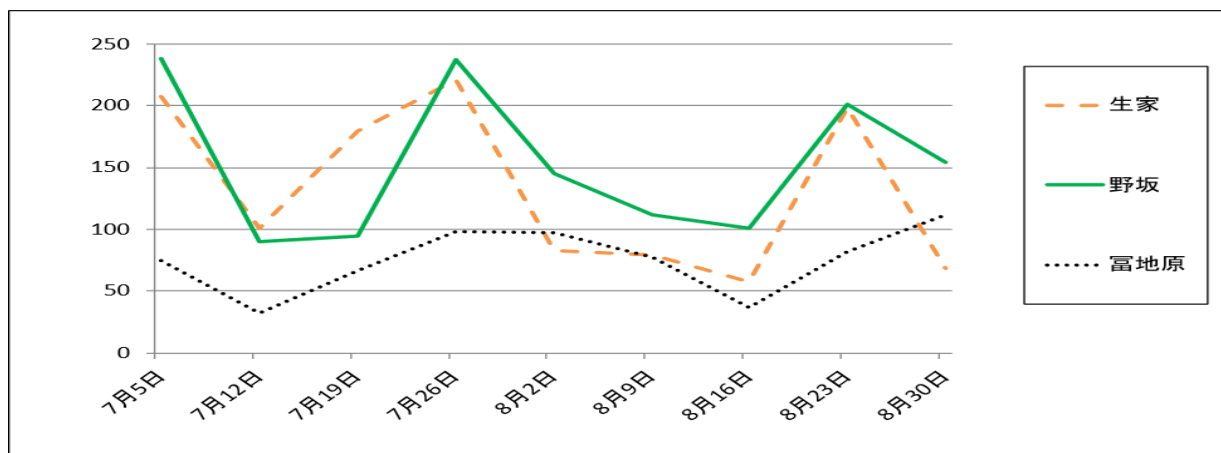
紫斑病は多湿条件で多発します。紫斑病の防除適期は開花後3～5週目頃です。

### （2）カメムシ防除

本年度はカメムシの発生が多いので、吸汁害による品質低下や青立ち株発生を防ぐため、防除を徹底しましょ。う。また広範囲に移動するため地域で一斉防除を行いましょ。う。

### （3）ハスモンヨトウ

現在のほ場での発生状況は地区によって差があり、幼虫の多いほ場については防除を行ってください。今後は、発生が少ない地区でも防除適期を迎えていきますので幼虫の発生状況によって防除を行いましょ。う。



フェロモントラップによる誘殺頭数の推移 (JA・普及センター調べ)

★ハスモンヨトウ、カメムシ類及び紫斑病の防除

防除時期	剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	使用量 (10a 当たり)
8月31日 ～ 9月10日	粉剤	トレボン粉剤 DL	ハスモンヨトウ カメムシ類	収穫14日前まで	4kg
	液剤	プレバソフロアブル5 (4,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫7日前まで	100～ 150ℓ
9月下旬 ～ 10月上旬	粉剤	スミチオンベルコート 粉剤 DL	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ	開花期～若莢期 但し収穫21日前まで	3kg
	液剤	プレバソフロアブル5 (4,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫7日前まで	100～ 150ℓ
		スタークル液剤 10 (1,000倍)	カメムシ類	収穫7日前まで	
トップジンM水和剤 (1,000倍)	紫斑病	収穫14日前まで			
10月中旬	粉剤	スタークル粉剤 DL	カメムシ類	収穫7日前まで	3kg
	液剤	スタークル液剤 10 (1,000倍)	カメムシ類	収穫7日前まで	100～ 150ℓ

※スミチオンは速効性で残効が短い。

※スタークルは吸汁阻害により、残効が長い特徴がある。スタークルの使用は2回まで。

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 散布後は必ず散布器具 (タンク、ホース等) を洗浄
- ④ 防除履歴の正確な記帳